

記 入 日 2012年1月13日

1. 概 要

実践団体名	千葉県立姉崎高等学校		
連絡先	0436(62)0601		
プランタイトル	～今年は防災で連携！京葉工業地帯の地震防災に学校地域の連携で立ち向かう～		
プランの対象者※1	5・8・9・10・11・ 17	対象とする 災害種別※2	1

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

「地域との連携を深める防災教育」において新しい危機意識の向上を目指す

- 1 学校の危機管理、企業の危機管理、地域の危機管理、病院の危機管理を共有し新しい危機管理の構築を目指す。
- 2 自助・共助・公助において地域と連携した防災体制の整備を目指す。

【プランの概要】

- 1 地域と連携し大規模災害に立ち向かうための知識や能力を体験学習を通して学ぶ。
- 2 大規模災害発生時に高校生は、共助の担い手として何ができるか考え、必要な知識や技能を習得させる。
- 3 地域のネットワークの構築・強化を図り防災意識の啓発・研究・広報活動を推進する。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 1 高校生は、共助の担い手として災害発生時の行動に必要な知識や技能の習得ができる。
- 2 災害発生要因を地域住民と共有することで、素早い非難や救助・安全対応が可能になり災害被害を最小限に食い止めることが期待できる。
- 3 自然災害は人間の力で食い止めることはできないが、災害被害は我々の意識により減らすことが可能である。高校生として地域のために何ができるかを考えさせ社会の一員としての意識を育てることができる。
- 4 千葉県総合教育センターとの連携により県内高等学校等に本プランの成果及び活用についての周知ができる。

2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	第 1 回校内防災担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> 自治会・企業・病院等へのプラン説明 防災委員選出検討 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理対応マニュアル配布 避難経路・災害時心得等配布 防災担当者連絡会議文書発送
5 月	第 1 回防災担当者連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所・消防署・企業・地元自治会への協力依頼文書発送
6 月		<ul style="list-style-type: none"> 地元自治会との連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査実施及び集計
7 月	第 2 回校内防災担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> 市役所・消防署・企業・地元自治会への連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> 校内夏季避難訓練実施 防災講演会実施 非常食作り体験実施
8 月	第 2 回防災担当者連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> 市役所・消防署・企業・地元自治会への連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習会実施 避難所体験実施 第 1 号姉高防災通信発行
9 月	第 3 回校内防災担当者会議		<ul style="list-style-type: none"> 市原市総合防災訓練参加 防災講演会実施 青葉台地区敬老会防災講話実施
10 月		<ul style="list-style-type: none"> 全県下公開防災 LHR 準備・検討 	<ul style="list-style-type: none"> 帝京大学ちば総合医療センター防災訓練中止
11 月	第 4 回校内防災担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> 市役所・消防署・企業・地元自治会への連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> 姉高祭防災パネル展示・AED 講習・防災 DVD 上映 全県下公開防災 LHR 実施
12 月	第 3 回防災担当者連絡会議		<ul style="list-style-type: none"> 1000カ所ミニ集会参加 青葉台3丁目防災訓練参加 校内冬季避難訓練実施 防災講演会実施 第 2 号姉高防災通信発行
1 月	第 5 回校内防災担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> 最終報告会準備・検討 	
2 月			<ul style="list-style-type: none"> 最終報告会参加

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	アンケート調査
実施月日（曜日）	平成22年6月
実施場所	青葉台団地（1丁目～9丁目住民 無作為選出 回答者346名）
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：稲葉秀文 所属・役職等：本校教頭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	1 2
活動目的※5	2・3・6・8
達成目標	防災関連行事の方向性を検討し、防災意識を高め災害に強い地域作りを考える
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 東日本大震災を題材にアンケート項目の検討 2 各自治会長に配布・回収を依頼する。 3 生徒により集計を行う。 4 各自治会長等に調査結果の郵送をする。 5 校内防災担当者会議で調査結果の分析を行う。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	・ 青葉台団地1丁目～9丁目自治会長 9名 ・ アンケート用紙
参加人数	
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】・防災教育を通して地域との連携を深め、防災意識の向上につながった。 ・ 地域の高齢化の実態が見えてきた 【課題】・日々の生活の中で防災意識を継続的に高めるため常に情報提供が必要である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	校内夏季避難訓練
実施月日（曜日）	平成23年7月13日（水）
実施場所	本校グラウンド・体育館・教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：相澤敬吾・姉崎消防署署員 所属・役職等：本校教諭（環境整備部長）・姉崎消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	16・2・13
活動目的※5	4・6・7・8
達成目標	1 災害時に命を守り的確に対応できる能力を養う。 2 防災に関する知識や技術を身につける。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1 避難訓練の目的・内容の伝達 2 大地震を想定した避難訓練 3 訓練の講評 4 その他の訓練 1・3年防災映画・災害時地図上帰宅経路確認 2年AEDを使用した心肺蘇生実習
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ ハンドマイク ・ 防災DVD ・ 学校から30キロ圏内地図 ・ AED・レサシオン
参加人数	500名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】避難訓練のみでなく、防災映画・災害時地図上帰宅経路確認・AEDを使用した心肺蘇生実習ができたことは新鮮な訓練となった。 保護者の参加もあり充実した訓練になった。 【課題】避難、点呼確認間での時間を早める。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 3】※3

タイトル	第1回防災講演会
実施月日（曜日）	平成23年7月15日（金）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：藤本一雄 所属・役職等：千葉科学大学 准教授
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムの カテゴリ、形式※4	3
活動目的※5	6・8・9
達成目標	大規模災害をイメージし高校生として何が出来るかを考え、地域における自助・共助について考える機会とする。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	「千葉県の地震・津波災害と高校生にできること」をテーマに講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン・プロジェクター・スクリーン
参加人数	530名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 千葉県の地震・津波災害について理解を深め、「高校生に出来ること」というテーマでは、減災への意識を高めることが出来た。 地域住民の方も24名参加し地域との連携を深めることが出来た。 【課題】 高校生と地域連携のあり方について地元自治会等を活用して検討していくことが必要である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	非常食作り体験
実施月日（曜日）	平成23年7月25日（月）
実施場所	本校グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：相澤敬吾 所属・役職等：本校教諭（環境整備部長）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	1 3
活動目的※5	4・6・7・8・9
達成目標	大規模災害発生時に自助・共助のための知識や技能を身につける。
実践方法・進め方 （簡条書き またはフロー）	1 ライフライン途絶時の非常食作りについて目的・内容の説明 2 ハイゼックス袋の使用説明 3 U字溝と一斗缶を使い非常食作り実習 4 試食 5 反省会・まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	U字溝・一斗缶・グレーチング・薪・ハイゼックス袋・無洗米・醤油・そばつゆ・釜飯の素・梅干し・お茶漬けの素・紙コップ・軍手・輪ゴム・ラップ
参加人数	45名
経費の総額・内訳概要	約18,000円
成果と課題	【成果】ハイゼックス袋を使った非常食を作り，試食でき，失敗もなくよい体験ができた。 【課題】非常食作り材料の備蓄方法が課題である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	防災学習会
実施月日（曜日）	平成23年8月1日（月）
実施場所	出光興産千葉製油所・千葉県西部防災センター
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名：出光興産 喜多村 常功・西部防災センター職員 所属・役職等：出光興産総務課職員・西部防災センター職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1日
プログラムのカテゴリ、形式※4	2・9・13
活動目的※5	5・6・7・8・9・10（大企業の持つ危機管理体制）
達成目標	大企業の持つ危機管理体制について現地で説明を受け、見聞を深め、更には、西部防災センターで大規模災害を想定した疑似体験学習を行う。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1 学校集合 2 大型バスに乗り、午前は出光興産、午後は千葉県西部防災センターで防災学習及び体験学習を実施 3 帰校
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	大型バス1台
参加人数	34名
経費の総額・内訳概要	約65,000円
成果と課題	【成果】 普段は、入ることの出来ない巨大製油所を目の前にして大規模災害時の恐怖を実感できた。 様々な疑似体験学習を行うことで行動の難しさや、新たに出来ることの発見が出来た。 地域住民や保護者の参加で地域との連携が更にはかれた。 【課題】 今回の東日本大震災のような想定外予測も必要である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	避難所体験（釜炊き出し体験）
実施月日（曜日）	平成23年8月4日（木）
実施場所	本校グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：相澤敬吾・川上 悟 所属・役職等：本校教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	1 3
活動目的※5	3・4・6・7・8・9
達成目標	避難所になった場合を想定し、釜炊き出し体験や避難所で高校生として何が出来るか考え学習する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 ライフライン途絶時の釜炊き出しや避難所での共助について目的・内容の説明 2 釜炊き出し体験 3 ご飯が炊きあがる間、避難所での共助について学習 4 炊き出しご飯の試食 5 反省会・まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	U字溝・一斗缶・グレーチング・薪・釜・無洗米・釜飯の素・水・ラップ・パソコン・プロジェクター・スクリーン・バケツ・筆記用具・段ボール・毛布・非常持ち出し袋（中身入り）
参加人数	40名
経費の総額・内訳概要	0円（実践プログラム番号：4 に含む）
成果と課題	【成果】実際に火をもしてご飯を炊くことは初めての人が多く、火加減や水加減の調節が難しかったが、良い体験となった。 避難所体験では、高校生として何が出来るか考え学習し、板の間での寝心地体験やバケツでトイレに水を流す体験などができて大変勉強になった。 【課題】食材の備蓄方法が課題である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	防災通信発行
実施月日（曜日）	平成23年8月24日・12月20日（年2回発行）
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：早川由香利（生徒） 所属・役職等：本校教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	1 7
活動目的※5	6・8
達成目標	本校の実施している防災教育チャレンジプラン「今年は防災で連携！京葉工業地帯の地震防災に学校・地域の連携で立ち向かう」の成果の確認及び広報，防災に関する情報提供を行い防災に関する意識や知識を高める。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 防災通信を作成 2 生徒・職員・地元自治会・PTAに配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	カメラ
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】防災通信を作成，回覧することで，防災についての情報を発信することが出来ると共に，防災意識が更に高まり，本校の防災活動が地域に広まり，開かれた学校づくりの一助となった。 【課題】毎年発行していくことが課題となる。
成果物	防災通信

【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	市原市総合防災訓練参加
実施月日（曜日）	平成23年9月4日（日）
実施場所	本校グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：大鐘 豊 所属・役職等：市原市役所姉崎支所長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	2・13・16
活動目的※5	4・6・7・8・9
達成目標	地域に学校を開放し防災訓練を行うことで、地域との連携をはかり防災に関する知識や技能を高め、高校生として自助・共助の役割を考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 本校グラウンドに集合 2 非常食作りの指導・補助 3 地域住民の避難誘導補助 4 心肺蘇生法・消火訓練等の体験学習 5 講評
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	U字溝・一斗缶・グレーチング・薪・ハイゼックス袋・無洗米・醤油・そばつゆ・釜飯の素・梅干し・お茶漬の素・紙カップ・軍手・輪ゴム・ラップ（その他は、市原市防災課、姉崎消防署が準備する）
参加人数	生徒・職員 約40名 地域住民・市原市役所職員・姉崎消防署職員 約940名
経費の総額・内訳概要	0円（実践プログラム番号：4 に含む）
成果と課題	【成果】実践プログラム番号：4 で実施した非常食作りの成果を生かし地域住民に非常食作りの指導・補助をすることが出来た。本校生徒が地域住民を本校まで避難誘導することが出来た。楽しみながら防災体験をすることで、防災意識が高まった。 【課題】避難場所や気象条件などの環境の変化に対する健康管理が心配である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 9 】※3

タイトル	第2回防災講演会
実施月日（曜日）	平成23年9月22日（木）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：福田 伸章 所属・役職等：東京災害ボランティアネットワーク事務局次長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムの カテゴリ、形式※4	3
活動目的※5	6・8・9
達成目標	高校生は、大規模災害発生時に自助・共助の担い手として何ができるか考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	「高校生は、大規模災害発生時に自助・共助の担い手として何ができるか」をテーマに講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン・プロジェクター・スクリーン
参加人数	500名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】阪神淡路大震災をはじめ、多くの災害現場を体験している講師の体験に基づき、映像を交えた講話には説得力があった。日ごろの準備や訓練の大切さや防災意識を高める一助となった。 【課題】大規模災害に備えて、生徒一人ひとりが自分にあった備えや心構えを考えることが必要である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 10】※3

タイトル	青葉台地区敬老会防災講話
実施月日（曜日）	平成23年9月25日（日）
実施場所	青葉台小学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：川上 悟 所属・役職等：本校教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	3
活動目的※5	3・6・8・9
達成目標	高齢化が進む青葉台地区の住民に対し地震防災についての知識を深め地域連携を図る。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	「地域と連携した防災教育」をテーマにした講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン・プロジェクター・スクリーン
参加人数	500名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】高齢者に対し防災に関する知識や意識を深めることができ更には地域に密着した人間関係作りができた。 【課題】一人暮らしの高齢者も多く高齢者への情報提供の方法が課題である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 11】※3

イトル	姉高祭における防災講習及び防災展示
実施月日（曜日）	平成23年11月5日（土）
実施場所	本校教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：鶴岡富士夫 所属・役職等：本校教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1日
プログラムのカテゴリ、形式※4	1・13・17（防災展示・防災DVD上映）
活動目的※5	6・7・8・9
達成目標	広く防災について周知すると同時に、体験を通して防災の知識や技術を身につける。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1 AEDを使用した心肺蘇生法講習 2 東日本大震災写真展示・非常持ち出し袋展示・防災DVD上映 3 非常食配布（アルファ米 300食）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ パソコン・プロジェクター・スクリーン・防災DVD ・ 東日本大震災写真パネル（100枚）・非常持ち出し袋 非常食（アルファ米 300食） ・ レサシオン・AED
参加人数	AED使用心肺蘇生法講習 20名・そのほか入場者 約100名
経費の総額・内訳概要	4,000円（写真台紙）
成果と課題	【成果】保護者がAEDを使用した心肺蘇生法講習に参加してくれたことが大変良かった。震災による被害や津波情報などたくさんの人に伝えることができた。 【課題】AEDを使用した心肺蘇生法講習の時間が1時間しか予定できなかったため参加者が限定されてしまった。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 1 2 】※3

タイトル	防災教育公開LHR
実施月日（曜日）	～政23年11月14日（月）
実施場所	本校教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：各クラス担任 所属・役職等：本校教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	50分
プログラムの カテゴリ、形式※4	6
活動目的※5	1・6・8・9
達成目標	防災に関する意識を高め、高校生として災害発生時に自助・共助を意識して行動できるように必要な知識や能力の育成を図る。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 事前に全県下に公開LHRの周知を行い、参観者を募る。 2 9つの課題テーマより各クラス1つを選択する。 3 選択した課題テーマにより指導案を作成。 4 各クラス毎に授業を展開し、課題テーマについてまとめる。 5 公開LHR参観者より意見、感想を聞く。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ パソコン・プロジェクター・スクリーン ・ 模造紙・マジック・マグネット
参加人数	本校生徒・職員 500名 他校教職員 20名 保護者 4名 県教育委員会 4名 地域住民 3名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】各クラスとも課題テーマより活発な授業が行われ防災意識の高揚が感じられた。 地域住民はじめ様々な関係の人たちに授業を参観していただき実りある防災教育ができた。 【課題】継続的な防災教育が望まれる。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 13】※3

イトル	青葉台3丁目防災訓練参加
実施月日（曜日）	平成23年12月4日（日）
実施場所	青葉台3丁目中央公園
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名：稲葉 秀文 所属・役職等：本校教頭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	1・2・16
活動目的※5	3・4・6・7・8・9
達成目標	地域の防災訓練に参加することにより地域との連携を深め、地域の持つ防災力を共有する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 青葉台3丁目住民が中央公園に避難してくる。 2 青葉台3丁目役員が、それぞれの役割分担により訓練の準備を行う。（一時避難訓練・炊き出し訓練・防火用水確保訓練・オイルランプ制作・ロープワーク・チェンソーの取り扱い・簡易トイレ作り・ブルーシート利用・消火器使用訓練・起震車体験） 3 炊き出し非常食により昼食 4 反省会・後片付け・解散
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・青葉台3丁目役員が、それぞれの役割分担により道具・材料等の準備をする。
参加人数	本校職員 4名 本校PTA役員 3名 青葉台3丁目住民 約300名 姉崎消防署署員 10名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】学校での防災訓練では体験できない色々な訓練ができ、今後の校内防災訓練等に役立てることができる。 【課題】今回は、生徒が期末試験直前のため参加できなかったが、地域との連携を図るため生徒の積極的な参加が望まれる。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 14】※3

タイトル	校内冬季避難訓練
実施月日（曜日）	平成23年12月19日（月）
実施場所	本校グラウンド及び体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：相澤敬吾・姉崎消防署署員 所属・役職等：本校教諭・姉崎消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	13・16
活動目的※5	4・6・7・8・9
達成目標	火災を想定した避難訓練を行い前回7月の避難訓練よりも早く避難し点呼完了を目指す。 学年毎の別の訓練により在学中に多様な訓練を行う。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1 火災発生を想定し全校生徒グラウンドに避難し点呼を行う。 2 訓練の講評 3 学年毎に分かれ訓練を行う。 1年・・・避難袋体験 2年・・・消火訓練 3年・・・AEDを使用した心肺蘇生法訓練
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ ハンドマイク ・ 避難袋 ・ 水消火器 ・ AED・レサシオン
参加人数	520名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 前回7月の避難訓練より1分程度避難完了が早くなった。 避難訓練のみでなく、避難袋体験・消火訓練・AEDを使用した心肺蘇生実習ができたことは新鮮な訓練となった。 保護者の参加もあり充実した訓練になった。 【課題】 更に、訓練に対する緊張感を指導する。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 15】※3

タイトル	第3回防災講演会
実施月日（曜日）	平成23年12月19日（月）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：喜多村常功 所属・役職等：出光興産株式会社 総務課 広報外渉統括
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	3
活動目的※5	3・6・8・9
達成目標	大企業の持つ大規模災害に備えての危機管理体制について学ぶ。
実践方法・進め方 （簡条書き またはフロー）	「大企業の持つ危機管理体制」をテーマに講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン・プロジェクター・スクリーン
参加人数	500名
経費の総額・内訳概要	5,000円
成果と課題	【成果】東日本大震災により学校近くのコスモ石油のガスタンクが爆発炎上したことを教訓に、地域に隣接した大企業と連携を図ることで地域防災に役立てることができた。 【課題】防災教育を通して、大企業と連携を図るため今後も講演会や企業見学等の継続が必要である。
成果物	なし

【実践プログラム番号： 16】※3

タイトル	防災教育担当者連絡会議
実施月日（曜日）	平成23年5月12日（木） 8月24日（水） 12月20日（火）
実施場所	本校会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：川端信正・相川 宏・小川伸弘・喜多村常功・始関 廣幸・長谷川信・野澤省吉・花澤祥浩・大鐘 豊 所属・役職等：地震防災アドバイザー・姉崎37地区会長会・帝京 大学ちば総合医療センター事務局次長・出光興産株 式会社・姉崎消防署副署長・千葉県教育委員会学校 安全保健課・市原市教育委員会・市原市役所総務部 防災課・市原市役所姉師支署長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2時間×3回
プログラムの カテゴリ、形式※4	17（会議）
活動目的※5	2・6・10（アドバイス及び助言）
達成目標	「地域との連携を深める防災教育公開事業」に関するアドバイスや 助言をいただく。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 第1回会議 趣旨説明・アドバイスや助言 2 第2回会議 中間報告・アドバイスや助言 3 第3回会議 最終報告・アドバイスや助言・反省・まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン・プロジェクター・スクリーン
参加人数	防災教育担当者連絡会議委員 9名 本校生徒 28名 本校職員 9名 合計46名
経費の総額・内訳概要	5,000円
成果と課題	【成果】本事業に関するアドバイスや助言をいただき、さらには各 関係機関や地域との連絡調整に大変御協力をいただいた。 【課題】学校と地域との連絡調整会議を年に1～2回は行う必要が ある。
成果物	なし

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>「今年は防災で連携！京葉工業地帯の地震防災に学校・地域の連携で立ち向かう」を防災教育チャレンジプランのテーマとして取り組んだ。</p> <p>(苦勞した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携を図るため、姉崎地区37自治会・市原市防災課・出光興産株式会社・姉崎消防署・帝京大学ちば総合医療センター・PTA・千葉県立姉策高等学校開かれた学校づくり委員会・千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課等へのプランの趣旨説明、年間計画への参加協力依頼、防災教育担当者連絡会議等の連絡調整に大変苦勞した。 <p>(工夫した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姉崎37地区長会長や市原市防災課のネットワークを利用し連絡調整を行った。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(準備活動で苦勞した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多岐にわたる年間計画の事業を実践するため、地域や関係機関との打ち合わせ、協力が不可欠であること。 ・ 外部講師との調整を含め、校内防災担当者会議を機能させ生徒参加型の防災教育の推進を行うこと。 <p>(準備活動で工夫した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育の年間計画を生徒が実践し、知識や技術を習得するため全校生徒を対象にする講演会や訓練等を多く取り入れた。 ・ 中間報告や防災教育交流フォーラム等の発表は、すべて生徒が主体的に行うことにより更に防災教育の推進が図れた。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(実践に当たって苦勞した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と連携を深める防災教育公開事業を進めてきたが、事業の周知や広報の難しさに直面した。 ・ 防災教育公開LHRや姉高祭展示物等の資料作りや資料収集に苦勞した。 ・ 学校行事や校務多忙の中、本事業の計画立案から実施に至るまで多忙を極めた。 <p>(実践に当たって工夫した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校のホームページや地域新聞・広報いちほら、など行政と連携することでかなり周知できた。 ・ 日本赤十字や公的防災機関などから資料収集ができた。 ・ 本校職員で組織する防災委員や生徒の積極的な参加を工夫し、役割を分担した。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課 千葉県立姉崎高等学校開かれた学校づくり委員会 青葉台小学校 姉崎東中学校 千葉科学大学	防災担当者連絡会議 防災学習会参加 防災講演会参加 防災講演会会場 合同ミニ集会会場 防災講演会講師 防災学習資料提供
保護者・ PTAの組織	千葉県立姉崎高等学校PTA	防災学習会参加 防災訓練参加 合同ミニ集会参加 防災講演会参加
地域組織	姉崎37地区会長会 青葉台自治会 青葉台敬老会 青葉台コミュニティーネットワーク	防災学習会参加 防災訓練参加 防災訓練参加 防災学習会参加 防災講演会参加 防災講演会 防災訓練参加 合同ミニ集会参加
国・地方公共団体・ 公共施設	千葉県総務部消防地震防災課 日本赤十字千葉県支部 市原市役所防災課 市原市役所姉崎支所 市原市姉崎消防署 千葉県西部防災センター	防災講演会講師派遣 展示資料提供 防災担当者連絡会議 防災担当者連絡会議 防災訓練講師 防災担当者連絡会議 防災学習会会場
企業・ 産業関連の組合等	出光興産株式会社	防災講演会講師
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	東京災害ボランティアネットワーク 地震防災アドバイザー	防災講演会講師 防災担当者連絡会議
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	帝京大学ちば総合医療センター	防災担当者連絡会議

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 防災教育を学ぶことによって、学校だけではなく地域を巻き込んで学習する機会ができ、自助・共助の意識を持つことができた。 2 災害のイメージを考えることによって、高校生が主体的に関わるボランティア意識を持つことができた。 3 地震に関する基本的な知識や防災対策等の基礎的技術の習得ができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 この1年限りの計画ではなく、継続的な防災教育計画を立てる必要がある。 2 今年学習した防災に関する技術や知識を継承して広める機会を作ることが大切である。 3 防災だけではなく、今以上に地域と連携した学校づくりを進める必要がある。
<p>今後の 継続予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 来年度から大規模災害に備えての備蓄食糧を全校生徒分と職員分を用意する。（予算の裏立てあり） 2 今年度行われた防災教育の成果を3月に全校生徒に防災委員の生徒が発表する。 3 来年度から市原市総合防災訓練に参加し地域との連携を継続する。 4 家庭科の教育課程に非常食作り（ハイゼックス）等の実習を取り入れる。 5 校内防災訓練に今年度、おこなってきた多様な訓練を取り入れる。 6 これまで行われてきた地域との連携を更に深める。

7. 自由記述欄 ※6

第 1 回防災担当者連絡会議 5 / 1 2



校内夏季避難訓練 7 / 1 3



第 1・3 学年防災学習 7 / 1 3



防災DVD上映

災害時帰宅経路を地図で確認

第 2 学年防災学習 7 / 1 3

第 1 回防災講演会 7 / 1 5



AEDを使用した心肺蘇生法講習

「千葉県の地震・津波災害と高校生にできること」

千葉科学大学 准教授

非常食作り体験 7 / 2 5



U字溝竈と一斗缶鍋

自分の好きな味付けで



約40分茹でて出来上がり
防災学習会（出光興産） 8/1

非常食試食



防災学習会（千葉県西部防災センター） 8/1



消火訓練

心肺蘇生体験

震度7起震体験

風速30m暴風雨体験

避難所体験（釜炊き出し体験） 8/4



市原市総合防災訓練（本校会場） 9 / 4



地域住民の避難誘導訓練

本校生徒が非常食作りを手伝う

地域住民が非常食を試食する



第2回防災講演会 9/22



姉高祭 防災展示館 11/5



防災教育公開LHR 11/14



AEDを使用した心肺蘇生法講習



外部から29名参加



各クラスがそれぞれのテーマで防災について考える
青葉台3丁目防災訓練参加 12/4



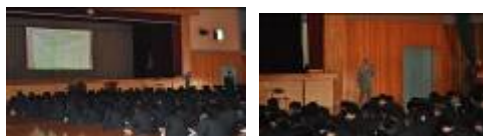
非常食作りの準備 仮設トイレ チェンソー操作訓練 ロープワーク

校内冬季避難訓練 12/19



避難訓練 1年救助袋訓練 2年消火訓練 3年心肺蘇生法訓練

第3回防災講演会 12/19



「大企業が持つ危機管理について」 出光興産株式会社

|

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)